



緑の園



12月号

ヒルトップハイツ
グリーンプラザ



デイサービスセンター
だより



第114号

令和7年12月1日発行



ABBA/ABBA(1975)

今年も一年ありがとうございました。令和7年も残すところあと一ヶ月、首尾よく締めくくれるよう頑張ります。

ある日のこと、いつものように皆さんにあいさつをしてまわっているとAさんが「これ娘からもらったの」と嬉しそうに話してくれてみせてくれました。

やはり家族の力は偉大だと感させられた出来事です。

利用者さんとお話をすると感じるんですが毎日かかわっているからこそほんの些細な変化や出来事なんかを教えてくれることがあって、とても楽しい瞬間もあります。

時には感情をあらわにして怒りをぶつけてこられる方もおられたり、「施設長、何か困ったことあったら言いな!私が一声かけたら2~30人くらいすぐ集まるから…。」と心強いお言葉をかけていただくこともあります。

とにかく、ご利用者さんと何気ない毎日の会話が私(おばら)の仕事の潤いとなっているのは間違ひありません。

さて、年末なので今年一年の反省をしますね。

今年はというよりいつものように私にとっては反省というかお勉強することの多い一年でした。

お勉強とポジティブな言い方をしましたけどうまくいかなかった事が多かったということです。

「思うようにいかない」とこと「うまくいかなかったから不運なこと」とは一緒ではないですが真逆な「幸運」なことが起こる確率は結構高くて、いいことが起こる割合はなんと67%もあるそうです。(ある数学者の提唱に



よるものですが中身は難しそうなのでここでは省略します)

ということは人生において「ラッキーなことやいいこと」がある確率は6割強もあるということです。

普段自分はついていないという多くの人は「幸運」が目の前にあるのに気づかないだけなのかもしれません。

確かに残りの37%は自分にとって悪いことが起こる確率です。

生きているうちには「いいこと」もあれば「悪いこと」だってあります。

大事なことは「悪いこと、不運」にどう対処するかの問題なんだと思います。

わたしは高校生だったころ理数系の大学を目指していました。3年生の時の物理の教師と折り合いが悪く結果文系の大学に志望の変更を余儀なくされました。(入学した大学も第2志望だったし)

ただ、私の場合でいえば不運というよりわたしにとって状況が変わっていく一過程でしかなかったのです。

志望校に入学できなかったからといって決して不幸ではありません。(長けりゃいいということでもないですが、この仕事を就いてからもう40年になります)

もしタイムマシーンがあれば高校生の自分に将来は結構楽しい人生を送ってるよ、志望校変更して正解さ、といってあげたいです。(おばら)



面会に関しての再度のお願いです。

日頃から丸瀬布社会福祉協会をご利用いただき誠にありがとうございます。

皆様方のご理解とご協力により当法人の運営が円滑に行われていることにつきまして感謝いたしますとともに心からお礼申し上げます。

さて、ご面会の制限につきまして先月号に続きまして再度のお願いです。

ヒルトップハイツは、12月20日(土)から1月18日(日)まで。

緑の園/グリーンプラザにおきましては**12月20日(土)から1月12日(日)**までの間、面会制限をさせていただくこととなっております。

インフルエンザに関しましては変異ウイルスまで報告されている昨今、近隣の学校では学級・学校閉鎖までになってしまふほど感染が拡大している状況です。ヒルトップハイツ、緑の園、グリーンプラザにおきましては先月ご希望されたすべての方々のインフルエンザ予防接種は終了いたしました。

ご利用者様をはじめご家族様にはご迷惑をおかけいたしますがご協力の程何卒よろしくお願ひいたします。

今月の行事予定を紹介いたします。

令和7年最後の行事予定を紹介いたします。

12月といえば年に一度のクリスマス会(?)があります。

デイサービスでは22日(月)から24日(水)にかけて開催いたします。

ヒルトップハイツでは17日の水曜日に、緑の園/グリーンプラザでは24日の水曜日にそれぞれ開催する予定です。

今月はすべての事業所が準備も含めてクリスマス会一色になっていますが忘年会も兼ねております。

年末恒例のそわそわ感を体験していただければと存じます。



自分の仕事

どんな仕事でも、それが世の中に必要なればこそ成り立つので、世の中の人びとが求めているのでなければその仕事は成り立つものではない。

人々が街で手軽に靴を磨きたいと思えばこそ、靴磨きの商売も成り立つので、さもなければ靴磨きの仕事は生まれてもしないであろう。

だから、自分の仕事は、自分がやっている自分の仕事だと思うのはとんでもないことで、ほんとうは世の中にやらせてもらっている世の中の仕事なのである。

ここに仕事の意義がある。

自分の仕事をああもしろい、こうもしたいと思うのは、その人に熱意があればこそで、まことに結構なことだが、自分の仕事は世の中の仕事であるということを忘れたら、それはとらわれた野心となり小さな自己満足となる。



仕事が伸びるか伸びないかは、世の中がきめてくれる。

世の中の求めのままに、自然に自分の仕事を伸ばしてゆけばよい。

大切なことは、世の中にやらせてもらっているこの仕事を、誠実に謙虚に、そして熱心にやることである。

世の中の求めに、精いっぱいこたえることである。

おたがいに、自分の仕事の意義を忘れず自分のためだけの仕事にならないようにしたいものである。

松下幸之助

以前、私(おばら)の孫から「じじは仕事でなにしてるの?」と質問されました。



そこで孫に答えたのは「そうだな、謝ることかな…。」といいましたら「謝ること?」と不思議そうな顔をしていました。今年一年ありがとうございました。来年もよろしくお願します。(おばら)

